



北海道NIE推進協議会と十勝新聞教育研究会共催の第6回NIE帯広・十勝セミナーが2月9日十勝毎日新聞社で、

## 2地区でNIEセミナー

同協議会主催の第4回NIE室蘭・胆振セミナーが同16日北海道新聞室蘭支社で開かれ、それぞれ4人の教諭たちが新聞づくりや効果的な新聞学習などについて発表した。

● 帯広

約35人の教育関係者が出席。帯広市緑丘小で4年を担当し、環境記事のスク랩作りを指導した橋本隆史教諭は「3年

本別町仙美里中の乙戸貴宏教諭は、小規模校の生徒の社会性向上を目指し記事の内容を考え、分析、伝える力を身につける学習について報告。「最初は新聞を読むのがやつとだつた生徒が記事の感想を書き、授業に積極

上士幌高の佐々木あずさ教諭は、大学・専門学校の体験訪問の結果を報告。「最初は新聞を読むのがやつとだつた生徒が記事の感想を書き、授業に積極

かを考えるきっかけにしました。進路指導に役立つた」と報告した。

「研修新聞」づくりを



時に環境問題について調べ、学習を経験していったのではなかった。3~4年のように2年計画で取り組むと、効率的な新聞学習が出来るのではないか」と述べた。

鳥教諭は、3年の総合学年計画で子供たちは意欲的だった。3~4年のように2年計画で取り組むと、効率的な新聞学習が出来るのではないか」と述べた。

鳥教諭は、3年の総合学年計画で子供たちは意欲的だった。3~4年のように2年計画で取り組むと、効率的な新聞学習が出来るのではないか」と述べた。



鳥教諭は、3年の総合学年計画で子供たちは意欲的だった。3~4年のように2年計画で取り組むと、効率的な新聞学習が出来るのではないか」と述べた。

鳥教諭は、3年の総合学年計画で子供たちは意欲的だった。3~4年のように2年計画で取り組むと、効率的な新聞学習が出来るのではないか」と述べた。

## 2年計画、児童に意欲

的に参加するようになつた」と成果を語った。

紹介。「表現力や協力し——を磨くきっかけになつた合つて完成させる総合力——ようだ」と述べた。



洞爺湖町洞爺中の田中研吾教諭は、全校で取り組んだかべ新聞づくりについて報告。「自ら課題を見つけ、考え、追求していく力を育むことは総合学習のねらいに適している」と述べた。

洞爺湖町洞爺中の田中研吾教諭は、全校で取り組んだかべ新聞づくりについて報告。「自ら課題を見つけ、考え、追求していく力を育むことは総合学習のねらいに適している」と述べた。

## NIE実践奮闘記

● 室蘭

参考者が多く、NIEへの関心の高さがうかがわれた帯広・十勝

約20人の教育関係者が参加、実践発表では、

効果的な新聞学習の事例が報告された室蘭・胆振セミナー



伊達市東小の坂井亮一教諭が3年の国語学習で、新聞を使って「へん」「つくり」から漢字を探す2年の必須社会科で歴史

宗像美貴子教諭は、2年の必須社会科で歴史が新聞の中から記事を選び、選んだ理由を発表する。他の児童はそれを聞き拍手をする。児童はそれを聞き拍手をする。国語の授業では新聞を毎日取り上げるようにして「話す・聞く」力を養つて

## かわら版で表現力磨く

伊達市東小の坂井亮一教諭が3年の国語学習で、新聞を使って「へん」「つくり」から漢字を探す2年の必須社会科で歴史

宗像美貴子教諭は、2年の必須社会科で歴史



宗像美貴子教諭は、2年の必須社会科で歴史

宗像美貴子教諭は、2年の必須社会科で歴史

例を挙げると、私の受け持ち学級5年33名の家庭で新聞を購読しているのは3分の1程度である。今年実践

ましてや学級で自由に読める環境を作つても、紙面を開く児童さえいない。

こうした状況の中で、子供達に身近に新聞を感じてもらおうことがNIEへの一歩ではないかと思う。

が新聞の中から記事を選び、選んだ理由を発表する。他の児童はそれを聞き拍手をする。児童はそれを聞き拍手をする。国語の授業では新聞を毎日取り上げるようにして「話す・聞く」力を養つて

が新聞の中から記事を選び、選んだ理由を発表する。他の児童はそれを聞き拍手をする。児童はそれを聞き拍手をする。国語の授業では新聞を毎日取り上げるようにして「話す・聞く」力を養つて

が新聞の中から記事を選び、選んだ理由を発表する。他の児童はそれを聞き拍手をする。児童はそれを聞き拍手をする。国語の授業では新聞を毎日取り上げるようにして「話す・聞く」力を養つて

IIEを活用した授業について研究発表する。



IIEを活用した授業について研究発表する。

IIEを活用した授業について研究発表する。

道南地区で私がNIEと出会つて10年あまりとなる。この間、中学校の公民分野で、小学校における低高学年で実践してきた。しかし、これらを取り組みは定着すること無く、一時的にイベント的な実践となり、1年限りの試みとなつた。現在のNIE活動は、このような実践で終わつている。ケイクスが結構あるのではないかと思う。ではなぜこのようなことになるのか。一つには学校全体としての取り組みまでに達しないということ。新聞がそれほどまでに教育現場に入り込んでいないと

いふ事実である。衝撃的な



函館市神山小教諭 深澤 昌明

校となり子供達に新聞を提示したところ、真っ先に読むのがテレビ欄だった。他のページには進みもしない。

歩ではないかと考えた。どのような活動は初歩の段階でしかないが、現状を考えると、ここからのスタートが大事ではないかと思う。毎日の「帰りの会」、一日直

いふ。また、社会科では1人に新聞1部を常に持たせ、そこから得られる情報の量や質などを「マスマディア」の学習テーマとする。こうした活動は、年間指導計画

## まず新聞を身近な存在に

の中に位置づけ、5年の段階では必ず新聞を取り上げる授業を行つて。昨年函館市内で起つた少年による暴行事件など、身近に起きた事件を生きしく伝えられる新聞はまさに生きた教材である。道徳の授業の主教材として十分である。教師には、常にアンテナを張り巡らせ、情報を見いだす力が必要と思う。色々な実践の中で、新聞をいつに取り入れていくか、身近に取り入れながらどのようにして児童・生徒の学習の中へ。FAX042-6911。

3月に全国高校NIE研究大会 東京で29、30日

会第6回研究発表会が3月29、30の両日、東京千代田区内幸町の日本ブレスセンターで開かれる。29日は午後1時から開会式、記念講演のあと広島市立安佐北中・高校の種谷克彦教諭による公開授業・研究協議がある。30日午前は全国から集まつた高校教諭たちがNIEを活用した授業について研究発表する。

# 円相場予想■株を仮想売買



見学は1月25日。3年生の選択社会(B)の授業で、生徒は23人。担当の清水顕史教諭は、日本経済新聞社がコンテスト形式の株式学習プログラムとして企画、主催する「全国学生対抗円ダービー」と「日経OCKリーグ」を5年前

札幌・北野台中

## 経済、ネットで体験学習

### 日経のプログラム活用

から授業に取り入れ、為替相場や株式投資をシミュレーション学習する

#### 実践校 リポート

札幌市北野台中では、インターネットを利用して株式投資を体験学習する授業が週1回行わ  
れている。「自らの利益ばかりを追う」と教育効果を疑問視する声がある中、生徒たちに「株や  
投資の仕組みを学んでから、新聞を良く読むようになり、社会全体の動きがわかるようになつ  
た」と好評な学習内容をリポートする。(北海道新聞NIE推進センター委員・小田原賢二)

ことによって、経済の仕組みをわかりやすく教えている。

1学期、生徒たちは経済学習の補充として、まず円ダービーにクラスとして参加、全国の中、高、大学生らと円相場の予想を競い合い、為替相場や変動の要因などを勉強した。

2学期からは、STO注目した企業についてグループで報告する北野台中の生徒たち

高校教諭ら研究会 北海道高校文化連盟新聞専門部主催の第4回新聞指導研究会が1月8日、北海道新聞社で開かれ、新聞制作指導ノウハウ学ぶ



5人の発表者と参加者が意見を交わした研究協議

局顧問7年目の酒井徹夫教諭は、「学校の諸問題について全校生徒に情報発信することで、より良い学校づくりに貢献できる」と述べた。

旭川工業高の上田和利教諭は、「生徒が楽しけりや顧問も楽しい」と、楽しく取り組む新聞づくのノウハウを披露し、会場を笑いでわかせた。

そのあと、発表者と意見を交換する研究協議が

CKリーグに参加し、株式の仕組みや企業経営などを学んだ。その後6グループに分かれ、無料提供される日経新聞などを参考に、専用サイトなどを使つて仮想資金を元手に、今後値上がりすると予想される銘柄を選び、株仮想売買を体験した。

学習の中心は、投資テーマを決め、企業を選んで理由をまとめることで、全国の中、高、大学生らと内容の出来を争う。授業では、各グループがリポートを発表したが、ゲーム機器のように、生徒たちにとって身近な商品を開発・販売している企業を選ぶグループが多い。

清水教諭は「現実の取り引きでは大きなリスクを伴うことも授業で教えられている。株価が急落していく時期に授業が出来、生徒たちは良い勉強になったと思う。経済の動きを体験できるだけなく、発表する力、相手の話を聞く力もついていく」と話している。

かた。中には「決済端末の共用化により電子マネーの普及がさらに促進する」と結論づけて、共用化による独自の事業などに積極的な数社に分散投資するという、水準の高いリポートを発表する

生徒たちは「株はちゃんと企業や経済の動きを調べることで、幅広い知識が得られ、社会の動きが見えてくるようになつた」などの感想を話しており、指導の目的は達せられていている。

清水教諭は「現実の取り引きでは大きなリスクを伴うことも授業で教えている。株価が急落していく時期に授業が出来、生徒たちは良い勉強になったと思う。経済の動きを体験できるだけなく、発表する力、相手の話を聞く力もついていく」と話している。

## 授業時間不足が課題 専門学校の活用例も

道NIE研修 冬季研修



北海道NIE研究会の本年度第2回NIE実践交流会「冬季研修会」が1月11日、北海道新聞社で開かれ、授業で新聞を活用する教諭ら約30人が参加した。

同新聞社の三好則男・論説主幹が論説委員の仕事をついてミニ講演、同研究会副会長の上村尚生・札幌新陵東小教頭が11月に開かれた第12回北海道NIE研究大会の公参加した。

局顧問7年目の酒井徹夫教諭は、「学校の諸問題について全校生徒に情報発信することで、より良い学校づくりに貢献できる」と述べた。

旭川工業高の上田和利教諭は、「生徒が楽しきりや顧問も楽しい」と、楽しく取り組む新聞づくのノウハウを披露し、会場を笑いでわかせた。

そのあと、発表者と意見を交換する研究協議が

開授業の成果と課題について報告した。実践発表では、札幌稲積中の森長賢二教諭が必須国語(2年)の内容を説明。 「注目した記事のリポートを書かせた。新聞に親しむことはできたが、授業時間が不足が課題。選択教科にす

# 文章力向上、就活にも意欲



「『えん罪』事件と犯罪報道の落とし穴」をテーマにした公開シンポジウム。学生、市民230人が見守った=1月27日、鹿児島大学の稲盛会館で

開講以来3年目を迎えた鹿児島大学法文学部の「マスコミ論」講座が、学生たちに人気だ。南日本新聞など新聞、テレビ、通信13社が講師陣を全面的に引き受

## 高い学生の満足度

「学生の評判はいいですよ」。講座責任者の竹内勝徳教授は表情を和らげ。事実、授業への満足度が極めて高いのだ。2005年度後期にスタートしたマスコミ論講座は、「マスコミ論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の3段階で構成される。06年度マスコミ論Ⅰの受講生調査では、「授

業に満足している」の項目に5段階評価で4以上と答えた学生が8割近くに達した。「授業で新たな発見を得た」は約9割

# マスコミ論講座好評

## 鹿児島大

けるなど、強力にバックアップしているのが特徴。豊かな現場経験から生まれる実践的な授業が学生たちに大きな刺激を与えている。

## 報道13社が全面バックアップ

今回から北海道NIEが北広島、千歳、恵庭の各市と空知管内栗山町の4図書館が公募された。北広島市大曲の「ふれあい学習センター」で行われた。

壁新聞NIE賞に西の里小・平尾君ら

4図書館が公募



### 編集後記

○…学校で為替や株の仕組みをゲーム感覚で教えることは、生きた経済を学ぶ早道であると同時に、マネーゲームに安易に参加するのを助長する「もろはの刃」になりはしないか。

○…札幌北野台中の授業を取材する前、そう心配していたが、生徒たちの発表を聞いて杞憂(きゆう)と感じた。担当教諭の指導力によるものだろう、株売買はかなり難しく、リスクが多いことを彼らはしっかり学んでいる。

○…こうした授業の影響で、将来株の売買にのめり込むようになると思うのは短絡だ。東京証券取引所の調査でも株式学習ゲームで学んだ中学、高校生の8割が株売買はしないと答えている。

○…道内の中学、高校でも、この授業の取り組みに関心を持つ先生は少なくないが、指導の難しさと周囲の抵抗から踏み出せないようだ。経済に強い若者を育てるために、一歩二歩前進してほしいと思う。(小)

推進協議会が主催者が加わり、特別賞としてNIE賞4点を表彰した。応募作品は、小学生120点(参加者2289人)、中学生6点(同1月下旬)に上り、

【小学生壁新聞】▽会長賞は、北広島市祝梅小5年・豊島佳子(千歳市千歳中1年)、北広島市西の里小2年・平尾秀馬(北広島市西の里小2年・平尾秀馬)、北広島市大曲小6年・寺嶋莉奈(栗山町立小6年)。

【同デジタル新聞】▽会長賞は、北広島大根弁当新潟(北広島市大曲小6年・中沢佳子)、北広島市千歳中1年・大島千歳(千歳市千歳中1年)、北広島市千歳中2年・高沢あかり(千歳市千歳中2年)。

だ。Ⅱ、Ⅲでも同じような結果が出た。竹内教授は「マスコミへの興味はもともと強い。紙面や画面の舞台裏では、手間暇かけて作られていくことやスタッフの構えなどを知り、イメージ

これら授業のほとんどを担当しているのが報道13社の講師陣だ。講座の方

が主導的活動を強化へ

に各図書館のスタッフによって審査された。受賞作品(会長賞、NIE賞)は次の通り。

【小学生壁新聞】▽会長賞は、北広島市大根弁当新潟(北広島市大曲小6年・中沢佳子)、北広島市千歳中1年・大島千歳(千歳市千歳中1年)、北広島市千歳中2年・高沢あかり(千歳市千歳中2年)。

と異なる実態への驚きが魅力になっている」と説明する。

入門編のIでは、新聞・テレビの仕事内容や地域メディアの役割などを学び、II、IIIは記事作成、取材実習など実習主体で、定員を設けてマスコミ志望者などに絞り込む少人数授業。07年度はIを63人、IIを26人、IIIを12人が受講した。人気の高さがうかがえる。

受講生に変化もみられる。竹内教授は「教員も学生も長文が習性になつていて、実習を通してポイントをとらえた文章がどうかを意識するようになる」と文章力の向上を強調する。もう一つ同教授が指摘するのは、マスコミを受験するか否かに関係なく、就職活動へ

ポイントをとらえた文章がどうかを意識するようになる」と文章力の向上を強調する。もう一つ同教授が指摘するのは、マスコミを受験するか否かに関係なく、就職活動へ

に見据えている。(南日本新聞社NIE推進委員会事務局長兼鹿児島NIE推進協議会事務局長・徳留孝一)